

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年11月6日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873600472		
法人名	社会福祉法人 東湖園		
事業所名	高齢者グループホーム 百歳万歳	ユニット名	壺番館
所在地	〒311-1504 茨城県鉾田市安房1665-2		
自己評価作成日	平成26年4月26日	評価結果 市町村受理日	平成26年11月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873600472-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年6月26日	評価機関 決 済 日	平成26年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- ・近隣に協力病院があり医療支援を受けやすい。
- ・園外活動（外食、ドライブ等）を定期的に取り入れ気分転換を図っている。
- ・同法人が運営する保育園との交流が数多くあり、運動会や誕生会等を通じて、園児とふれあう機会がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は幹線道路から車で2分程脇に入った場所に立地しており、周りは住宅が点在する閑静な環境となっているほか、敷地内に同一法人の特別養護老人ホームや通所介護事業所があり、日頃から連携を図りながら利用者の支援にあたっている。

2ヶ月に1回開催する運営推進会議では、利用者や家族等からの意見や要望などに重点を置き、問題の解決策を全委員で考え、早急にサービスの向上へと結び付けている。

管理者は近隣の農家の方から季節毎の野菜や果物を頂いた際には、頂き物をどの様に調理して利用者に提供したのかを写真に撮って頂いた方に報告するなど、農家の方の思いや気持ちを大切にしたい対応に努めている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念を玄関とスタッフルームに掲示すると共に、カンファレンスや会議等で理念の意識を確認し、より具体的なケアの実践に取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を掲げ、玄関と職員の休憩室に掲示している。 管理者と職員は月1回の会議時に理念を唱和して共有し、理念にそって支援ができていないか再確認をしながら、実践に結び付けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	・保育園、地元のボランティアの訪問を積極的に受け入れている。 ・特別養護老人ホーム合同で主催する、納涼祭にて地域の方を招待している。 ・近隣の農家の方が野菜を届けてくれる。	毎年夏に利用者や家族等、地域住民との交流を目的とした「納涼祭」を同一法人が運営する隣接の特別養護老人ホームと合同で開催し、家族等や地域住民を招待して利用者が交流できるように支援をしている。 利用者は同一法人が運営する保育園の運動会に招待され、職員と一緒に「玉手箱」や「玉入れ」競技に参加するとともに、利用者の誕生会には保育園児が来訪して歌や遊戯を披露するほか、職場体験学習で来訪する近隣の中学生と交流しているほか、近隣の農家の方がほうれん草や春菊、南瓜、大根、ねぎ、水菜、さつまいも、三つ葉、メロン、トマト、苺、卵など季節毎の野菜や果物を届けてくれており、日常的に地域住民と交流するとともに、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・在宅介護支援センター主催の介護者教室に参加すると共に、介護方法やグループホームについて説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回の会議を実施している。又、必要に応じて開催している。 ・利用者の状況等について話し合い意見を求めている。	運営推進会議は家族等の代表や市担当者、区長、民生委員、隣接する特別養護老人ホーム管理者、代表者、管理者、職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の生活の様子や運営状況の報告を行うとともに、課題などを話し合い、委員から出た意見や助言をサービスの質の向上に活かしている。 委員から「利用者や家族等から意見や要望が出し易いアンケート内容に変更した方が良いのでは」との意見を受け、今までの満足度アンケートから具体的に意見や要望を得ることができる内容に変更したほか、「事業所内の雨漏りは完全に直したのか」や「利用者が楽しみとしている夕食の回数を増やして欲しい」など、多くの意見や要望を受けて運営推進会議で話し合い、サービスの質の向上に結び付けている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議時などに話す機会を持っている。	管理者は要介護更新認定の申請などで毎月市担当者を訪問し、運営状況や空き状況を報告して協力関係を築くよう取り組んでいる。 市担当者から介護保険制度の改正や研修、お知らせなどが随時FAXで届くほか、地域包括支援センター職員からは、入居前の利用者について支援内容や事業所選定の相談を受けるなど、日頃から協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・施設内研修を行なっている。	身体拘束や行動制限を行わないことを契約書に明記するとともに、職員は月1回の会議で身体拘束の状態になっていないかを確認し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに努めている。 身体拘束排除委員会を設置し、委員が中心となって身体拘束をしないケアの研修を実施しており、全職員が身体拘束の内容とその弊害を理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・施設内研修を行なっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・施設内研修を行なっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約書に基づき利用者や家族から不安や疑問に対して十分に説明し納得を得ている。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見箱を設け、自分で書ける方は書いて頂き、書けない方は、口答で申し出て頂いてアンケートを作成し、本人やご家族に記入して頂いている。又、それについて利用者や家族職員間で話し合い、よりよい方法を考えている。	管理者や職員は利用者との日々の会話から意見や要望を聴いているほか、家族等からは来訪時や電話連絡時、アンケートなどで意見や要望を聴くよう努めている。 家族等からの「外食を増やして欲しい」との要望を受け、今までは年2回から3回だった外食を外食支援時にも組み込むようにし、毎月外食支援をするように変更している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月に1回、又は随時グループホーム会議を設けて意見を聞いている。	管理者は月1回の会議時に職員の意見や提案を聞く機会を設けているほか、休憩時間にコミュニケーションを図り、日頃から何でも言い合える関係づくりに努めている。 職員から「夕方の申し送りは、夕食の準備前より準備後にした方が、利用者の夕食時間が遅れないですむ」や「洗濯物は利用者ごとの衣装ケースの元の場所に収納した方が、利用者や職員が困らない」との提案を受け、夕食準備後に申し送り時間としたほか、職員に洗濯物の収納場所を徹底させるなど、職員の意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・年2回、職員評価表を用いて自己評価を行い、その後、管理職が再評価をしている。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人内の年間計画で研修を行っている。又、外部研修へも参加する機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・市の会議に参加したり、外部研修参加時に同業者と交流する機会を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・利用前に実態調査の為、訪問し、本人からの疑問、要望等を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・利用前に実態調査の為、訪問し、家族からの疑問、要望等を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人の状況にあった施設、又は、居宅であるか、本人・家族・施設職員とよく話し合い、見極めをしケースによっては、法人内の在宅介護支援センターに相談することもある。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員とお茶・食事・散歩等を一緒に行動をする中で要望・悩み・訴え等を聞いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・行事等には、家族に連絡をし、参加を促し食事を摂っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・携帯電話、電話、手紙を書いたりして関係が継続できるように支援している。	利用者との日々の会話や家族等から話を聴き、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するように努めている。 利用者の馴染みの友人や親戚が来訪した際には、お茶を出して居心地よく過ごせるように努め、馴染みの人との関係が途切れないよう支援をしている。 利用者の行き付けの美容室や理容室、馴染みの店での買い物など、家族等が行けない場合には職員が支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員が話題を提供したり、本人の出来る役割をしてもらい、お互い認め合えるような関係を築けるよう援助している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・協力病院に入院時には定期的に訪室し、声かけをしている。同一法人内施設入所時にも随時、見守り声かけをしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・定期的にケアチェック表を利用してモニタリングし、希望要望を把握している。	職員は入居時にアセスメントで利用者の生活歴を把握するとともに、利用者との日々の会話から希望や意向を把握するほか、家族等から話を聴いて把握に努めている。 意思疎通が困難な利用者の場合は表情やしぐさから判断するほか、家族等から話を聴いて管理者と職員で相談しながら把握している。 把握した内容は「個人ファイル」や職員が知り得た情報を記録する「連絡ノート」にそれぞれ赤くアンダーラインを引くなどの工夫をして記載し、全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・実態調査の資料を基に趣味や以前の経験を暮らしの中に活かしていけるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・随時モニタリング、カンファレンスをし、状況を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・入居者、家族の要望を把握して、これによってアセスメントを行い介護計画をたてている。	介護計画は利用者や家族等の意見や要望、医師や職員の意見を取り入れて作成し、月1回カンファレンスを実施するほか、3ヶ月毎にモニタリングを実施して見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直し、利用者や家族等の確認を得ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護計画に基づいた記録を見直しながら、モニタリングを行い、計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・買い物の要望、又は、代行。事務の代行（振り込み等）を随時、行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・保育園の行事に参加したり誕生会等には園児達に来て頂いている。 ・ボランティアの方々に定期的に来て頂いている。又、随時、受け付けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居者・家族の希望が優先であり、協力病院と連携を密にして気軽に相談している。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能ことや、協力医療機関の医師をかかりつけ医にできることを説明している。 かかりつけ医への受診は家族等の付き添いを基本とし、受診時には職員が利用者の体調などを書いた「情報提供書」を家族等から医師に渡してもらっている。 職員は月1回協力医療機関の医師への受診を支援し、受診結果を家族等に電話や面会時に報告するとともに、「個人ファイル」や「連絡ノート」に記載して全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・園長が兼務し、夜間緊急時の相談対応ができる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・隣接地にかかりつけの病院がある為、入院時には毎日面会に行っている。又、隣接しているので早期発見による治療も可能である。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入所前の契約時に話し合いをし意向を聞いている。契約書に記載している。又、協力病院以外の病院入院時には、随時、家族と連絡を取り合い状況把握に努め、退院後の生活について話し合うようにしている。	契約時に利用者や家族等に重度化や終末期に向けた事業所の対応指針を説明し、確認を得ている。入居後管理者が家族等に看取りに関しての実態調査を行った結果、検討中であるとの家族等の意見であった。事業所は看取り経験はないが、「看取りに関する指針」から利用者や家族等の希望で看取り介護を支援する場合に備えて、同一法人の特別養護老人ホームと合同で内部研修を受講しているが、管理者と職員で看取り介護支援に向けて具体的に話し合うまでには至っていない。	管理者と職員で看取り介護支援に向けて話し合うとともに、役割や支援内容など、具体的な研修を行うことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急対応マニュアルを作成している。緊急時における連絡網の掲示、病院が隣接しており緊急時に対応出来る体制となっている。又、研修会も行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的に消防訓練、避難訓練を実施している。又、地域の消防団の方々にも参加して頂いている。非常災害時に3日分位の水と食料品を備蓄している。	避難訓練は消防署立ち会いのもと、隣接する同一法人の特別養護老人ホームと合同で地域住民の参加を得て年2回実施し、うち1回は夜間想定避難訓練を実施している。訓練は防災委員会の職員を中心に行い、通報や避難誘導、水消火器による消火訓練など実施し、訓練後に反省点や今後の課題などを話し合っって記録に残している。災害に備えて水やご飯、インスタント味噌汁、レトルトカレーなどを備蓄するとともに、一覧表を作成して管理している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・職員は入所者の生活歴や生活を十分に把握し、言葉かけをしている。又、職員研修を行っており、常に勉強している。	管理者や職員は利用者一人ひとりの性格や生活歴を把握したうえで、利用者の呼び方や言葉遣いなどに気を配り、利用者が言われたくないことを言わないように意識するなど、利用者一人ひとりの尊厳を大切に考えて支援している。 職員はトイレ誘導時には利用者に小声で声をかけ、トイレのドアを閉めるなど、プライバシーに配慮した対応に努めている。 個人情報に関する書類は事務室の施錠ができる書棚に保管し、情報漏洩に留意している。 利用者や家族等から介護計画書に基づく支援に必要な情報提供の「個人情報提供同意書」を得ているが、利用者の写真が掲載された事業所の広報誌「百歳万歳だより」を利用者や家族等から口頭での了承を得て毎月関係者などに配布しており、詳細な利用目的を明記した書面での同意を得るまでには至っていない。	利用者の個人情報となり得ることを利用する場合は、利用目的を詳細に明記し、書面で同意を得ることを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・入所者の希望を大切にし、日々の行事等も取り入れている。本人の思いを記録する時には、ケース記録に赤でラインを引く等をし、職員間で共有出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・入所者のペースに合わせた、ゆったりとしたケアの実践と支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・好みの服の買い物や美容室・理容室も本人の好みの所へ行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の好みの箸や食器の使用をしている。 ・職員が間に入り、雑談しながら摂っている。 	<p>献立は利用者の希望を聴きながら、肉や魚を交互に取り入れたり、近隣の農家の方が季節毎に届けてくれるほうれん草や春菊、南瓜、大根、ねぎ、水菜、さつまいも、三つ葉、メロン、トマト、苺、卵など、季節毎の野菜や果物のほか、自家菜園で収穫した茄子、トマト、キュウリなども食材に取り入れながら職員が調理をして提供している。</p> <p>職員は利用者と一緒にテーブルを囲んで、会話をしながら食事をし、誕生会や行事には特別食を提供したり、外食を取り入れたりして、食事が楽しみなものとなるよう支援をしている。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者一人一人の食事や水分量の状況を把握し、チェック表に記載している。ヤクルトなど毎日飲んでいる。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食後は歯磨き、義歯の手入れ、うがいなど自力で行なって頂いている。出来ない方は支援している。又、年1回、協力歯科医に来園してもらい検診を受けている。 		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄チェック表を使用し、排泄パターンを把握している。介助が必要な方は、定期的に誘導している。 	<p>職員は排泄チェック表から利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見計らってトイレ誘導を行い、トイレで排泄ができるよう支援しているほか、リハビリパンツやパッドを使用して排泄の自立に向けた支援をしている。</p> <p>失敗した場合は周りに気付かれないようさりげなくトイレや風呂場に誘導し、利用者の自尊心を傷つけないよう配慮している。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・野菜を多く取り入れた食事を提供している。又、牛乳やヨーグルト、オリゴ糖水などの提供、1日2回、身体を動かす体操を取り入れている。園外への散歩、ホール内の運動も多く取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・希望に応じて、毎日、又は1日おきに実施し、ゆったりと入浴出来るように支援している。シャワーベンチマット、シャンプーも本人の希望がある場合には、個別で使用している。	風呂は毎日沸かし、毎日午前中の入浴を基本としているが、利用者の状態や希望にそって入浴日や時間帯を変えたり、シャワー浴や足浴など、個々に応じた支援をしている。 入浴を嫌がる利用者には無理強いせず、職員や時間帯を変えたり、「着替えをしましょう」など利用者の興味のある話しをしながらさりげなく風呂場へ誘導したりするなど、無理なく入浴ができるよう工夫をしている。 端午の節句には菖蒲湯や冬至には柚子湯にするなど、季節感を取り入れながら、入浴が楽しみなものとなるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・ドライブ、散歩、レクリエーションを通して、夜間眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個別の薬の飲み方や副作用等の症状の変化や早期発見に努めている。変化がある場合は、医師、看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・洗濯たたみや台拭きなどの役割や楽しみごとに応じた支援、又、食事の際、本人の好きなおかず（個人購入）したものを提供している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・入居者一人一人に合わせて、買い物・地域の催し物、又、家族の協力を得て面会時等、外出している。	天気の良い日には利用者と職員で事業所周辺を散歩したり、代表者宅の庭に咲く花を観に行ったりするなど、利用者が気軽に外気にふれられるように支援している。 毎月季節の花を見物する外出行事を年間計画に組み込むとともに、ドライブを兼ねて外食を支援するほか、近隣で開催される「いばらきグリーンフェスティバル」や銚田市主催の「銚田文化祭」などのイベントの見学など、四季の移り変わりを肌で感じたり、気分転換ができるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭管理の出来る方は、小遣いの範囲内で自己管理している。その他は、個別の支援している。又、出納は、家族に定期的に書面で報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・携帯電話の使用を許可している。本人の希望があった時には、事務所内の電話を使用している。・はがきの購入、投函、代筆等の支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居者や職員が共に作成した作品や七夕飾り、お月見団子、鏡もち作り等をしている。又、ゆず湯や菖蒲湯の入浴や梅の実を収穫してジュース作りも行っている。	玄関は2ユニット別々な場所にあるが、渡り廊下で自由に行き来ができ、利用者同士が自由に交流ができる環境となっている。 1つのユニットの食堂兼居間は、事業所で開催する行事などで多くの人が集まれる広い間取りとなっている。 利用者が疲れた時に休憩したり、利用者同士が交流したりできるよう長椅子やソファを配置するほか、廊下に手摺を設置して安全に楽しく暮らせるよう工夫をしている。 廊下の壁には利用者と職員と一緒に制作した季節の花の貼り絵などを飾り、季節感を取り入れている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファコーナー、畳コーナー、ベランダに休憩コーナーがあり、それぞれ工夫した場所で、入所者がおもいおもいの過ごし方をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・個人、家族の要望を取り入れ、それぞれの装飾品、ラジオ、テレビ等を持ち込み、落ち着いた生活をおくっている。	居室にはエアコンやベッド、カーテン、クローゼット、洗面所、トイレが備え付けられている。 利用者は家族等と相談しながら使い慣れた整理箱や衣装ケース、テレビ、ラジオ、仏壇、家族の写真、趣味のパズルの作品など、思い思いの物品を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・名前を居室のドアノブへ表示し、認知症により室内の家具等にも表示している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 高齢者グループホーム 百歳万歳

作成日 平成26年11月3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	管理者と職員で看取り介護支援に向けて話合うと共に、役割や支援内容など具体的な研修を行う事を期待する。	看取り介護を支援する場合に備え、内部研修を行う。	看取り介護支援に向けて、職員の役割・支援内容を具体的にグループホームの会議の中に取り入れる。	1年
2	36	利用者の個人情報となり得ることを利用する場合は、利用目的を詳細に明記し書面で同意を得ることを期待する。	個人情報について、利用者及び家族に利用目的を理解して頂く。	契約書の中に組み入れ同意を得る。	3ヵ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。